〔箋注倭名類聚抄十草〕按說文菊字注云、大菊蘧麥、爾雅亦云、大菊、蘧麥、本草瞿麥、卽蘧麥之假借、本草大蘭、當是大菊之譌重複也、又按陶弘景云、一莖生細葉、花紅紫赤可愛、子頗似麥、故名瞿麥、圖經云、苗高一尺以來、葉尖小青色、根紫黑色、形如細蔓菁、花紅紫赤色、亦似映山紅、二月至五月開、七月結實爲穗子、頗似麥、故以名之、李時珍曰、石竹葉似地膚葉而尖小、又似初生小竹葉而細窄、其莖纖細有節、高尺餘、梢間開花、田野生者、花大如錢紅紫花、人家栽者、花稍小而嫵媚、有細白、粉紅、紫赤、斑爛數色、俗呼洛陽花、結實如燕麥、內有小黑子、

〔東雅十五草卉〕瞿麥ナデシコ　倭名鈔に本草を引て、瞿麥一名大蘭、ナデシコ、一にトコナツといふと註せり、万葉集には石竹讀てナデシコといひけり、瞿麥また石竹の名あるが故なり、今の如きは、田野に生ずるものを、ナデシコといひて瞿麥の字を用ひ、人家栽るものをば、石竹の字を用ひて、其字の音をもて呼ぶなり、古にも石竹をば又ヤマトナデシコなど云ひけり、ナデシコといふ義詳ならず、トコナツとは其花の開く事、春より秋に至て、常に夏の如くなるをいふなり、藻鹽草に、トコナツ、万葉集に四時美とかけり、夏秋は歌によむ、春冬はいまだよまずと見えたり、されど霜さゆる朝のはらの冬枯にひとはなさけるやまとなでしこ、といふ歌の如きは、冬によみしと見えたり、

〔塵袋三〕一石竹ト云フハ何レノ異名ゾ

石竹ニ二ノ說アリ、一ニハヤマスゲト云フ、一ニハ瞿麥ト云フ、多說ノ中ニナデシコト云フハ、ナヲヨロシキ說歟、万葉ノ家持ガ詠云、

石竹ノ其花ニモカアサナ〳〵手ニトリモチテコヒヌ日ナケン、又同集介云、

ミワタセバムカヒノ野べノ石竹ノヲチナクヲシモアメナフリコソ、此等ノ歌ハ石竹ト書テ、ナデシコトヨメル事明也、樂府ニハ石竹金錢ナンゾクタ〳〵シキト云ヘリ、ヤマスゲモ花ハサケドモ、サシモモテナスベキ物ニシモ非ズ、是モ撫子ナルベシ、金錢ト云フハ、カラナデシコトテ、丹ノ色シタル花ノ、ナデシコニ似テ大ナルモノニヤ、